

NPOセフティマネジメント協会

リスクマネジメント導入セミナー開く

中小企業向けノウハウ提供

「安全で豊かな社会づくり」を目指して活動するNPOセフティマネジメント協会は8月27日、9月17日、10月22日の3日間、東京都港区の機械振興会館で中堅・中小企業を対象に「リスクマネジメント導入セミナー」を開催している。3回のセミナーはそれぞれ異なる専門家3人が講師を担当し、社内に必要なノウハウやリソース持たない中小企業でも導入できるリスクマネジメントを提案する。

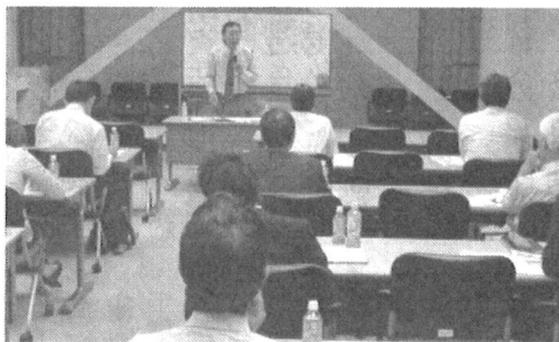


出崎理事長



浦嶋氏

CROの設置呼び掛ける



熱心に聴講する参加者

開催に当たってあいさつした同協会の出崎理事長は、事業規模にかかわらず多くの日本企業がグローバル展開を進めていることについて、「グ

ローバルな経営には、日本の本社が主導するリスクマネジメント体制の構築が必須になる」との考えから同セミナーの開催に至ったことを説明した。

第1回となる8月27日は「グローバルリスクマネジメント体制構築のポイント」と題して、日本アルマックの浦嶋繁樹代表が講演した。同氏は

「21世紀は自由化と自己責任の時代。リスクマネジメントがなければ、企業は身を守ることもできない」とリスクマネジメントの重要性を強調した。また、保険は企業

課題を解決する一つの方法ではあるが、保険で全てを解決することはできないと指摘し「事業課題解決の鍵はリスクマネジメントと決算書にある」との持論を展開した。

また、同氏は近年問題になっている大手企業の粉飾決算や情報漏えい問題についても言及。これらの問題の原因が全て人にあると説明し、人間はミスをするとの前提に立ったリスクマネジメントの必要性を繰り返し強調。今後は各企業にCRO(チーフ・リスク・オフィサー)の設置が求められるとした。

この他、導入が検討されている国際会計基準についても触れ、今後は会計基準が従来の過去会計(財務)から未来会計(財務)に変わると説明。「リスクは未来にか存在しないが、日本には未来会計に対応できる会計士が不足している」と問題意識を示し、「世界の流れの中に日本はある。大所高所から現状を見つめ、状況に合わせた体制を整えるべきだ」と呼び掛けた。